

大阪港で輸入農産物に発見された *Carpophilus* 属 (ケシキスイ科)

村 松 有

神戸植物防疫所大阪支所

On the *Carpophilus* Beetles (Nitidulidae) found on Imported Agricultural Products at Osaka Port

By

Tamotsu MURAMATSU

Osaka Branch, Kobe Plant Protection Station

輸入農産物に付着してくる害虫の種類は非常に多種にわたっているが、*Carpophilus* 属 (ケシキスイ科 Nitidulidae) のものも輸入検疫の際にしばしば発見される。この属は世界から 180 種あまり記録されていて、そのうち十数種が貯蔵中の穀類その他の農産物を加害することが知られている。

筆者は 1955~1959 年の間に大阪支所で行なった輸入検査並びに輸入麦類取扱工場の害虫調査の際に採集された種類について、それらが食害していた農産物の種類と仕出国または発見工場の所在地別に整理してそれぞれの種類の性質を検討した。

この調査を実施するにあたり、種名の同定に多大の御援助をいただいた愛媛大学農学部昆虫学研究室の久松定成氏に深く感謝する次第である。

別表中の採集回数は、同一の船または製粉製麦工場から 2 種以上発見した場合はそれぞれ 1 回とした。

別表に示すとおり、この調査期間中に発見された *Carpophilus* 属は 8 種で、このうち、日本本土に分布の記録のない種は、*Carpophilus dimidiatus* FABRICIUS, *C. obsoletus* BLANDFORD, *C. luridus* BLANDFORD, *C. humeralis* FABRICIUS および *C. sp.* の 5 種であり、分布しているものは、*C. pilosellus* MOTSCHULSKY, *C. marginellus* LINNÉ, *C. hemipterus* LINNÉ の 3 種であった。

上記の 8 種を仕出地域別に整理し、DOBSON (1954, 1959) の報告と比較してみると、

1. *C. dimidiatus* 日本では奄美群島に分布していることが知られているが、輸入検疫では東南アジア、東アフリカおよび南アフリカ産の貯蔵農産物から発見された。しかし英国における DOBSON の調査では北部アジアおよび北アフリカを除く広い地域からの貯蔵農産物から発見しているので、本種の分布は非常に広いものである。

本種が付着している貯蔵農産物は穀類、油料原料、乾果、香辛料および薬料等きわめて広範な種類に及んでいる。

2. *C. obsoletus* 北部アジア、東南アジア、北アメリカ、北アフリカおよび西アフリカ仕出しの貯蔵農産物から採集されたが、英国では上記のほか近東、中央アメリカおよび南アメリカのものからも発見している。

本種が付着してくる植物は前種と同様に多くの種類に及んでいる。

3. *C. luridus* 東南アジア産の穀類から発見された。
4. *C. humeralis* 北部アジアと北アメリカ産の植物から発見されたが、英国では近東のものから採集している。

本種の付着植物は生果実および木材であった。

5. *C. pilosellus* 東南アジア産の穀類から発見した

Carpophilus 属の発見状況一覧表

種 名	発見された植物(場所)名	仕出国(地域)	採取回数
<i>Carpophilus, dimidiatus</i>	とうもろこし	南アフリカ	3
	ひま種	タイ	5
	カボック種	"	8
	"	インドネシア	8
	棉実	タイ	5
	落花生	"	2
	"	インドネシア	2
	"	インド	2
	"	英領東アフリカ	1
<i>Carpophilus, obsoletus</i>	ばれいしょ	エジプト	1
	米	タイ	1
	"	アメリカ	1
	米粉	タイ	1
	とうもろこし	"	4
	ふすま	アメリカ	1
	落花生	沖縄	1
	コブラ	マラヤ	1
	"	インドネシア	3
	アブラヤシの核	マラヤ	5
	"	インドネシア	1
	"	ナイゼリア	1
<i>Carpophilus, luridus</i>	とうもろこし	インドネシア	1
<i>Carpophilus, humeralis</i>	パイナップル	台湾	1
	とうひ丸太	アラスカ	1
<i>Carpophilus, sp.</i>	ラワン丸太	フィリッピン	1
<i>Carpophilus, pilosellus</i>	米粉	タイ	1
	とうもろこし	"	3
	カボック種	インドネシア	1
	(製粉・精麦工場)	(近畿地方)	(25)
<i>Carpophilus, marginellus</i>	小麦 (製粉・精麦工場)	アメリカ (近畿地方)	1 (2)
<i>Carpophilus, hemipterus</i>	ばれいしょ	エジプト	1
	松丸太	アメリカ	1
	米	タイ	1
	とうもろこし	"	3
	カボック種	"	1
	アブラヤシの核	インドネシア	1
	コブラ	英領西太平洋諸島	1
	(製粉・精麦工場)	(近畿)	(2)

() は輸入麦処理工場で発見されたもの。

が、本種は日本では農家、製粉、精麦工場等から多く発見される。

6. *C. marginellus* 北アメリカ産の穀類から発見したが、近畿地方の輸入麦取り扱い製粉、精麦工場を調査した際にも発見された。英国では、上記のほかに西アフリカ産の穀類等からも発見している。

本種の付着植物は穀類と菜類である。

7. *C. hemipterus* 東南アジア、北アメリカおよび北アフリカ産の貯蔵農産物から発見し、また近畿地方の製粉、精麦工場からも発見された。英国では上記のほかに、北部アジアおよび東アフリカを除いた地域からのものから発見している。

本種の付着植物はきわめて種類が多く、わが国ではみそ、しょうゆ、乾果等の重要害虫として知られている。

上記のほかに、英国の調査によれば、*C. mutilatus* (東南アジア、近東)、*C. maculatus* (西アフリカ、東南アジア)、*C. ligneus* (近東、ヨーロッパ、西アフリカ、南アフリカ)、*C. freemani* (南アメリカ、西アフリカ、オーストラリア)、*C. halli* (東南アジア、西アフリカ)、*C. fumatus* (西アフリカ、南アフリカ) の 6 種を貯蔵植物生産物を食害する種類としてあげている。それゆえ、われわれも輸入検疫の際に、さらに詳細な調査をすれば、これらの種類を発見することもあると考える。

名古屋・門司港における輸入トウモロコシ から発見された害虫類

川 波 敬 一 郎*・山 下 光 生

名古屋植物防疫所

山 崎 昭**・木下末雄*・堂元邦典

門司植物防疫所

Stored-Grain Pests of Imported Maize at Nagoya and Moji Ports

By

Kei-ichiro KAWANAMI, Mitsuo YAMASHITA

Nagoya Plant Protection Station

Akira YAMAZAKI, Sueo KINOSHITA and Kuninori DOHMOTO

Moji Plant Protection Station

近年トウモロコシの輸入量が激増しており、かつその仕出地も世界の各地域にわたっているので、筆者等は名古屋、門司両港における輸入検疫の際に発見した害虫類を仕出地別に整理し、それぞれの仕出地によって発見される害虫群の優占種に相違があるかどうかについて検討を試みた。トウモロコシの輸入検疫にあたってこの資料が参考になれば幸いである。

この調査は、名古屋においては昭和 35 年 7 月から 12 月までの 6 ヶ月間に入港した 7 ヶ国仕出しの 81 隻につ

いて、門司港においては同年 7 月から翌年 5 月までの 11 ヶ月間に入港した 7 ヶ国仕出しの 45 隻についてそれぞれ実施した。

この調査で記録した害虫は 18 科・30 属・35 種類で、このほかに種名が不明なものが若干あったが、これらの中には本邦未発生または局地的に発生しているスジコナマグラメイガ *Anagasta kühniella* ZELLER, ガイマイツヅリガ *Corcyra cephalonica* STANTON, シャムコクヌスト *Lophocateres pusillus* KLUG, オオメノコギリヒラタムシ *Oryzaephilus mercator* FAUVEL, *Trigonorhinus sticticus* BOHEMAN, コツノコクヌストモドキ *Echocerus maxillosus* FABRICIUS, コメノゴミムシダマ

* 現在門司植物防疫所三角出張所

** 現在神戸植物防疫所大阪支所
(1962 年 10 月受領)